

国鉄労働千葉 雇用安定協約再締結で大裏切り

国鉄千葉動力車労働組合

85. 10. 10

No. 2060

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三五（六）公衆〇四七二（二二）七二〇七

雇用安定協約再締結で大裏切り

国鉄当局は、十月五日、大量不当処分を通告するとともに、「雇用安定協約」非更新もある」と商業新聞で大キャンペーンするなど「処分」を恫喝の材料とした屈辱攻撃に打って出てきた。これのお先棒をかついでいるのが動労「本部」革マルだ。動労「本部」は十月四日の「雇用安定協約」に関わる交渉の中で「一九八七年四月一日以降は首に許すな」旨の約束を当局とかわしている。この反労働者分子を断じて許すな。

雇用安定協約破棄で指名解雇などできない

当局は、商業新聞に「雇用安定協約が結ばれないと指名解雇もある」なるデマを書かせ、首になりたくなければ言うことを聞け、協力しろと反動的恫喝を行っている。ふざけるな、やれるものならやってみろ!!

答申で余剰人員九万三千人のうち、二万人は希望退職、四万一千人は旧国鉄で雇用・保険程度の保証で転職のための訓練と言わざるをえないのはどうしてなんだ。雇用保険がない国鉄労働者の指名解雇はブルジョア法的に言っても無理があるから、さすがの監理委も苦肉の策で希望退職や転職という名での首切りを行わざるをえないのだ。

一九八七年四月一日以降の首切りを認める動労「本部」

動労「本部」革マルは、自からの裏切

りと屈服をおしかくすため、当局の尻馬に乗り「首切りを阻止するために出向に行く」「スト反対」「分割・民営化賛成」と称し、組合員を国鉄から放り出してきた。

そして十月三日には、全施労・鉄労とともに「雇用安定協約の再締結」の約束を当局と交し、「これで雇用が守れる」「国労、動労千葉は指名解雇だ」とさわいでいる。ふざけるな！交渉の席で何を約束したのだ。

組合の側から「協約は一九八七年三月三十一日まで」と申し出たのは誰だ。敵は「一九八七年四月一日」を期して新会社を発足させると共に大量首切りを行おうとしているのだ。十四兆二千億円もの借金をかかえた会社でやっていくという事は、そういう事なのだ。それを認めて、何が「雇用が守れる」だ。

そもそも旧国鉄に残った四万一千人はどうするのだ。要するに動労「本部」革マルは、動労の組合員も含め本来に雇用を守る気など一切ないのだ。奴隷となつた革マル分子だけ残ればいいのだ。これが許せるか。

仕事と職場を守るためには闘う以外ない。動労「本部」革マルのスト破り許さず、十一月ストを断固闘いぬこう。

二期工事阻止、不法収用法弾劾
東峰十字路裁判闘争勝利、動労千葉支援
10.20全園総決起